

夏、それぞれの成長

— 幼いきょうだいと暮らす —

藤津 麻里

昨年の夏は一か月、夫の実家に滞在しました。

山口県の長門市という、日本海に面した小さな町です。旅をするとは成長するといいますが、確かに我が家の子どもたちも、体も心もぐーんと大きくなった一か月であったように思います。

とりわけ印象的だったのは、次男の激しい人見知りでした。七か月ぶりに会う祖父母に、三歳二

か月の長男は、すぐになじんだのですが、一歳三

か月の次男は全くダメ。少し前から、知らない人に会うと時々泣くことはありましたが、この時は住む家や生活全体が変化したショックもあったせいか、殊に激しく人見知りが出たようです。

祖父母と目が合うとうつぶむいて上目遣いに睨むようにして半ベソ。コチコチに固まってしまいま

す。祖母はそれを見て「おでこで人を見ている」と大笑い。もう一度目が合おうものなら、アーンと泣きだしてしまいます。おかげで、夕食のテーブルについても、祖母は次男と目が合わないように気をつけながら食事するはめになりました。

この子はもともと陽気でニコニコしている子で、スーパールのレジのおばさんにも笑顔をふりまわし、行動も大胆な方だ、と私は思っていました。この激しい人見知りはずっと意外でした。祖母も寂しいだろうし、少し困りました。が、そのうちに変わるだろう……と気楽に考えていました。

変化の兆しが見えたのは、二、三日後でした。訪問した大叔母に「おいで」と誘われ、トコトコ近づいて一瞬タッコされ、パツとすぐ離れたのです。そばにいた私も夫もびっくり。大叔母の笑顔



に、何かひかれるものがあつたのでしょうか。あるいは、新しい環境に慣れてきてリラクセスし始めたしるしだったのでしょうか。後で話を聞いた祖母は「まあ、私にはまだ抱かれんほに（抱かれないのに）……」と少し不満そう。

やっと祖母に慣れてきた、と思えたのは一週間経ってからでした。祖母がおどけて遊んでくれると少し笑うようになり、自分でも椅子の陰に隠れては出てきて、顔を隠していないならばあをしてみせます。それでも、まだ完全に人見知りがなくなったわけではなく、祖母から顔をそむけることも時々みられました。

こうしたゆっくりとした過程を経て、最後は

すっかり祖父母になつきました。特に祖父が好きで、「パパ」と呼びかけるので「おじいちゃんだよ」と教えると、「オジーチャン」というような発音をします。夕食を食べていても、祖父が帰宅した物音に「おじいちゃんが帰ってきた!」とばかりにパツと立ち上がり、玄関に行つて祖父の足に抱きついて歓迎していました。

この人見知りは、次男にとつては成長の山を一つ越えるような出来事だったのかもしれませんが。普通は父、母、兄とだけ過ごしているのに、急に祖父母や親戚が賑やかに出入りする家に移り、新しい環境に慣れるのは、彼にとつては大変だったことでしょう。その困難な時を乗り越え、新しくより豊かな人間関係を築くことができたのだと思うのです。

年の近い従姉妹たちとの関わりを持てたことも、子どもたちには嬉しいことでした。次男も、

相手が子どもなら人見知りもせず、すぐにニコニコ一緒に遊び始めます。七歳と四歳の従姉たちが来た時は、はしゃいで後について家じゅうをのし歩いて大喜び。少し年下の、一歳になったばかりの双子の従妹に対しても興味津々です。おもちゃをパツと取られてしまい、泣く一幕も。その後も何度か取り合いになり、自分が取つて従妹が泣くと、顔を覗きこんでおもちゃを渡そうとしたり、それを従妹が取ろうとすると渡さず、取り返そうとしたり……。相手が泣くと可哀相だけど、自分もおもちゃを使いたい、という心の揺れが見えるようでした。

長男も、従姉たちと公園やサファリパークに行つたり、畑でバッタをつかまえたりして過ごし、双子の従妹にはやさしく遊んであげ、面倒をみようとしていました。自分の弟に対しては怒ったりひどい態度をとることが多いのに、よその小

さい子にはやさしいんだな、と見ていておかしくなるくらいでした。

実は、長男の次男に対する態度には、このころずつと困っていたのです。弟に遊びを邪魔されたり、作ったものを壊された時に、悲鳴をあげたり、怒って手が出てしまう……。これは、見ても気持ちが悪く理解できるのですが、弟が手にしたおもちゃは何でもすぐとりあげる。弟が何もしないなくても「ダメ！ダメ！」と叫び続ける、となつてくると、こちらもどう対処していいのかわからず、長男を叱ってばかりの毎日が続いていました。弟のおもちゃを意地悪でとりあげるのではなく、弟が手に取ったとたん、それが欲しくなってしまうようなのです。おかげで次男は泣かされっぱなし。長男の方も次男がすることに気をとられすぎて、自分の遊びにじっくり没頭できずにいるのではないかと思わされるほどでした。

その一方で、弟と同じような声を出してみたり、同じ甘え方をしてみたりもします。そ

うすれば、親に可愛がってもらえると思うのか……。私達も、つい小さい次男の方に目が行きがちで、長男の気持ちを充分受けとめたり、ゆつくり甘えさせたりすることが少なくなっていたかもしれませぬ。

家に戻ってきて二週間経って、もとの生活のペースが戻ってきたようです。そして、長男の次男への態度に、少しゆとりが出てきたのを感じます。以前は何かあるとすぐに「ともちゃん（次男）はダメ！ダメ！」と叫んでいたのに、このごろは遊びを邪魔されても、すぐに怒ってばかりいるのではなく、「ダメだよー、ともちゃん。アハハハ」なんて言えるようになってきたのです。



もちろん、いつもそうだというわけではないのですが……。

弟にやさしくなったことをほめてやると、「なおくん（自分のこと）、おこることもあるからねー」と長男。「なおくん、おこるとかいじゅうになっちゃうの。でも、ともちゃんが『ごめんね』つていえば、なおくんわかるよ」これには、「ともちゃんは『ごめんね』つて言えないから、ママがかわりに言うね」と答えておきました。それにしても、自分の感情をこんなふうに客観的に言葉で説明できるようになるなんて、ずいぶん成長したなあと感じました。

何が原因でこんな変化が起きたのか、よくわからないのですが、もしかしたら、祖父母の家で小さな従妹たちにやさしくする場面ができたことが、いい方向に働いたのかもしれないね、と夫が話しています。いろいろな人の関わりに支えら

れながら、じつくりと心も成長してゆけるのですね。

言葉がどんどん出てきて、ますますおしゃべりになり、元氣いっぱいの子男。背が伸び、床屋で髪を短く切ったらグッと男っぽく、カッコよくなった長男。「もう三さいだからね」と自分に誇りをもち、今できないことも「五さいくらいになつたらできるかなー」なんて言っています。私も、二人の接し方にもっと心を砕きながら、親として、強く、かしく成長していければ……と願っています。

(会津若松市在住)